

1. 例にならって、次の各文で、並立の関係になっている文節に――線を施しなさい。

例 月と星がはっきり見える。

- ・母は太い大きな字を書く。
- ・姉も妹も同じ学校へ通っている。
- ・彼女は優しく美しい。

2. 次の文章は三つの段落に分けられる。第二段落と第三段落の最初の五字を、それぞれ抜き出しなさい。

日本の学生は、ただひたすら教科書だけを読んで勉強した気分になっている。そのため、卒業するとたちまち怠けてしまうように見える。教科書以外の本を読む習慣がないばかりに、せっかくの知識欲も宙に浮いてしまうのである。それならば欧米の学生はどのようであるかというところ、かくよく本を読む。知識欲を満たすために、教科書以外にも、いわゆる専門書と呼ばれる本をむさぼるように読むのである。彼らは専門書を読むことにあまり抵抗を感じていない。ごく日常的に専門書と接しているのである。ところがこの感覚は、そう簡単に身につくものではない。日やはり、早くから読書を習慣づけておく必要があるだろう。

第二段落 「

」 第三段落 「

」

3. 次の各文の述語に――線を引きなさい。

- ・ガラス瓶が 食卓の 上に ある。
- ・私は 家族に 行き先を 伝える。
- ・ウミガメが 海岸で 産卵する。
- ・この 果実は よく 熟れている。

4. 次の各文の――線部に対応する被修飾語を、一文節で答えなさい。また、――線部が連体修飾語ならA、連用修飾語ならBと、それぞれ答えなさい。

- ・昨夜から本格的に降ってきた雨は、まだやまない。 文節 ( ) 修飾語の種類 ( )
- ・長く細い道が、どこまでも続いていく。 文節 ( ) 修飾語の種類 ( )

1. 例にならって、次の各文で、並立の関係になっている文節に――線を施しなさい。

例 月と星がはっきり見える。

- ・母は太い大きな字を書く。
- ・姉も妹も同じ学校へ通っている。
- ・彼女は優しく美しい。

2. 次の文章は三つの段落に分けられる。第二段落と第三段落の最初の五字を、それぞれ抜き出しなさい。

日本の学生は、ただひたすら教科書だけを読んで勉強した気分になっている。そのため、卒業するとたちまち怠けてしまうように見える。教科書以外の本を読む習慣がないばかりに、せっかくの知識欲も宙に浮いてしまうのである。それならば欧米の学生はどのようであるかというところ、かくよく本を読む。知識欲を満たすために、教科書以外にも、いわゆる専門書と呼ばれる本をむさぼるように読むのである。彼らは専門書を読むことにあまり抵抗を感じていない。ごく日常的に専門書と接しているのである。ところがこの感覚は、そう簡単に身につくものではない。日々やはり、早くから読書を習慣づけておく必要があるだろう。

第二段落 「それならば」 第三段落 「ところがこ」

3. 次の各文の述語に――線を引きなさい。

- ・ガラス瓶が 食卓の 上に ある。
- ・私は 家族に 行き先を 伝える。
- ・ウミガメが 海岸で 産卵する。
- ・この 果実は よく 熟れている。

4. 次の各文の――線部が連体修飾語ならA、連用修飾語ならBと、それぞれ答えなさい。

- ・昨夜から本格的に降ってきた雨は、まだやまない。 文節（ ） 修飾語の種類（ B ）
- ・長く細い道が、どこまでも続いていく。 文節（ 道が ） 修飾語の種類（ A ）